

押野西遺跡

—二級河川木呂川改良工事に
かかる押野西遺跡緊急発掘調査報告—

1990

石川県立埋蔵文化財センター

押野西遺跡

—二級河川木呂川改良工事に
かかる押野西遺跡緊急発掘調査報告—

1990

石川県立埋蔵文化財センター

例　　言

- 1 本報告書は石川県金沢市押野2丁目295,296番地に所在する押野西遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の発掘調査は、二級河川木呂川改良工事に係るもので、平成元年1月11日に実施した分布調査により押野西遺跡の一部と確認されたものである。なお、分布調査は、橋木英道、藤田邦雄（石川県立埋蔵文化財センター）が担当した。
- 3 本調査は石川県立埋蔵文化財センターが担当し、平成元年9月20日から10月2日まで現地調査を実施した。平田天秋、湯尻修平、西野秀和、川端　誠、安　秀樹（以上、石川県立埋蔵文化財センター）が担当し、大藤雅男、藤重　勇の協力を受けた。
- 4 調査の実施にあたっては、金沢土木事務所、鈴木建設、金沢市田中町、高柳町有志の助言、協力を受けた。
- 5 本遺跡出土品の整理作業は、社団法人石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。
- 6 本報告書の執筆、編集は平田が担当した。
- 7 本遺跡の遺構、遺物実測図、写真、出土遺物などの資料は、本センターにて一括して管理している。
- 8 本報告書の遺構、遺物挿図、写真図版の指示は次のとおりである。
 - (1) 方位はすべて磁北を表示している。
 - (2) 水平基準は海拔高である。
 - (3) 挿図の縮尺　十器実測図-1/
 - (4) 写真図版中の遺物番号は、挿図に使用したものと同一である。
 - (5) 写真図版中の遺物の縮尺は不統一である。

目　　次

1 調査に至る経緯と経過	1
2 遺跡の環境	2
3 遺構と遺物	4
4 おわりに	4

1 調査に至る経緯と経過

伏見川の支流二級河川木呂川の中小河川改良工事が計画されたのは、昭和54年度である。急速に市街地化する野々市町、金沢市西部を流れる本河川は当然のことながら都市計画、土地区画整理事業と連繋して改良工事が行われるものである。流路の直線化、川幅の拡幅などがその事業の大半である。当初には、工事そのものが伏見川との合流地点（金沢市保古町地内）から初められた関係もあり、埋蔵文化財との関わりはなかった。昭和60年9月17日に西金沢三丁目地内（北陸本線より下流側800m間）の試掘調査を実施している。埋蔵文化財の検出はなかった。ついで昭和63年12月14日には先の西金沢地内の下流側500mの試掘調査、同年12月20日には北陸本線より上流側500mの試掘調査を実施している。埋蔵文化財は発見されなかつたが、北陸本線より上流側の試掘区に隣接する次年度事業区については、押野西遺跡に近接している可能性が高いことから、金沢上木工事事務所と協議をし、平成元年1月11日に試掘調査を実施

した。その結果、古墳時代の遺構・遺物が発見され引き続き協議となつた。平成元年度には、県全体での発掘調査量が多く次年度以降の発掘調査に持ち越されることとなつた。しかし、8月下旬から9月上旬の長雨のため9月7日に増水した木川の左岸が決壊し、隣接する住宅地が危険にさらされ、急遽、本年度の発掘調査に組み入れることとし、諸準備に取りかかった。9月20日には、現地での重機による表土剥ぎを開始した。当該地は、河川用地として買収される以前は水川であった。耕作土を耕すと包含層は遺存することなく地山（黄褐色砂土）となり、遺構が散見された。器材準備等を済ませ発掘調査を取りかかった。地山面が砂質のため、作業が非常にやり易く、また遺構も少なく短期間で終了することができた。10月2日には、器材等の撤収をおえ全て終了した。調査を進めるにあたつ



第1図 押野西遺跡の位置



増水により損壊した護岸(左岸)

て鷺木建設、金沢市田中町、高柳町地区有志の協力を受けた。記して、感謝の意を表しておきたい。

現地作業参加者（順不同）

大藤雅男、藤重 啓

坂田進午、高村松子、高崎春子、竹山くに子、高柳美代子、坂井かず子、西村みどり、坂井澄江、最里健太郎、宮田ハル、西川愛子、村上勝次

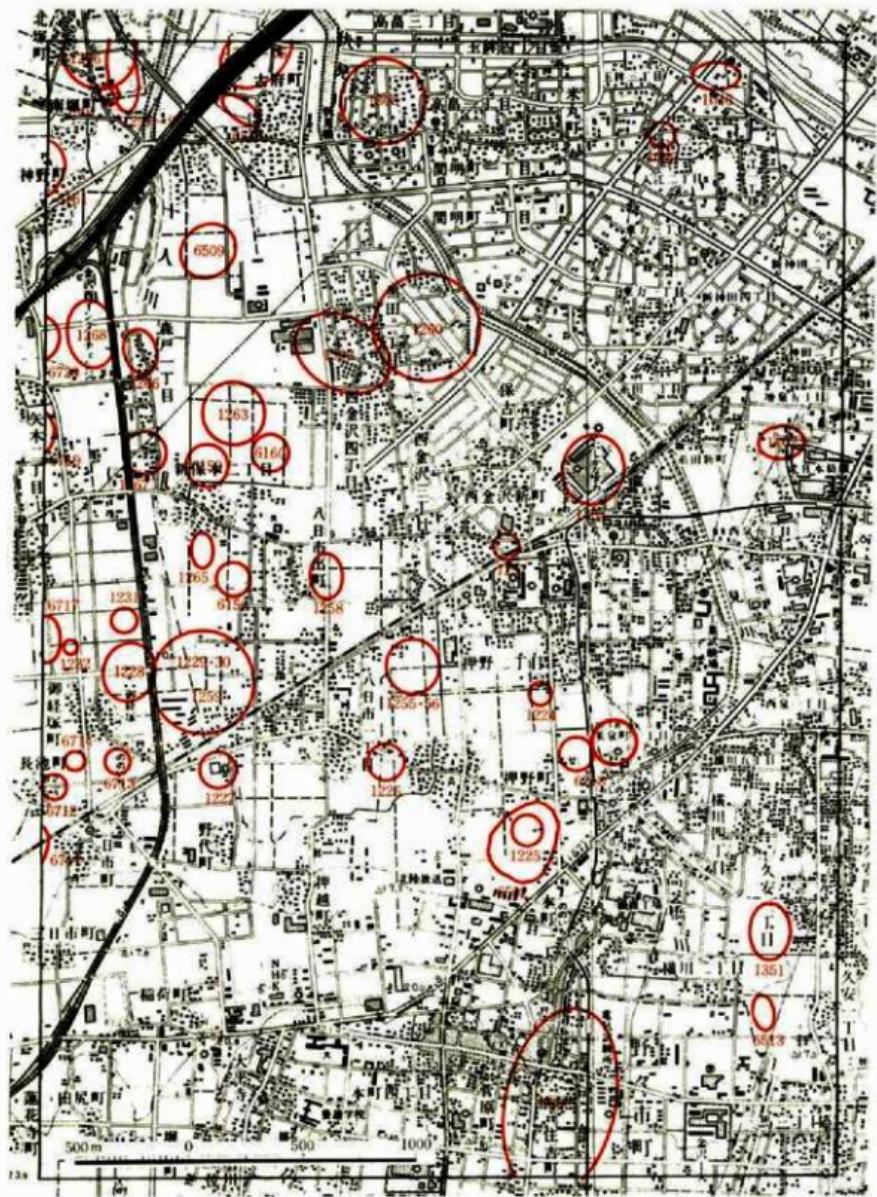
遺物整理 石川県埋蔵文化財保存協会

洗浄 前田すみ子、小野澄江、浅井勝郎、岡本晃 記名～トレース 小屋玲子

2 遺跡の環境

押野西遺跡は金沢市押野2、3丁目、野々市町押野地内に所在するものである。今回発掘調査を実施したのは金沢市押野2丁目295,296番地地内である。伏見川の支流、二級河川木呂川の右岸にあたり、昭和54年度に金沢市教育委員会が発掘調査を実施した地点から北東側約200mの所である。標高は9～10mを測るものである。木呂川は、その源を鶴来町の七箇用水に発し、手取川状地の用排水路を合しながら、野々市町・金沢市の近郊を北進し伏見川に合流する。周辺は、かなりの遺跡密度の高い地域である。縄文時代の遺跡では、西方約1,300mに後・晩期の国指定史跡御経塚遺跡（1,228）、北西1,300mに巨大木柱根の出土で知られる国指定史跡新保チカモリ遺跡（1,263）、北西約3,000mに中期の標識遺跡北塚遺跡（1,296）が所在している。弥生時代の遺跡では、西約1,000mに新保本町ツカダ遺跡（1,265）、南東約800m押野大塚遺跡（6,718）、押野タチナカ遺跡（6,502）が所在しており、本遺跡周辺では弥生時代の遺跡の比較的多い地域と言える。古墳時代では、北西約500mの所に八日市ヤマスル遺跡（12,58）、北東約500mに西金沢新町遺跡（1,257）、直刀の出土で知られる大塚古墳（1,224）、弥生時代との複合遺跡押野タチナカ遺跡（6,502）などが所在している。律令期の遺跡としては、西約1,000mに掘立柱建物を検出した御経塚B遺跡（1,230）、北東約1,000mに金沢専売公社工場遺跡（1,404）、北約1,000mに墨書き土器、井戸跡などが検出された黒田遺跡（1,260）が知られている。中世では、南約1,000mに押野館跡（1,225）、上宮寺跡（1,226）、西約1,000mに御経塚経塚（1,232）などがある。

縄文時代	1266 森戸本町遺跡	6717 御経塚シンデン遺跡
6712 長池キタバシ遺跡	6161 南塚遺跡	1265 新保本町ツカダ遺跡
1227 野代遺跡	1296 北塚A遺跡	6719 矢木マツノキヤ遺跡
6718 押野大塚遺跡	1297 北塚B遺跡	6720 矢木ジワリ遺跡
1228 御経塚遺跡	弥生時代	1303 吉府クルビ遺跡
6717 御経塚シンデン遺跡	6502 押野タチナカ遺跡	古墳時代
1287 森戸住宅遺跡	6714 御経塚ヤトメ遺跡	6513 久安トノヤシキ遺跡
1263 新保チカモリ遺跡	6718 押野大塚遺跡	6502 押野タチナカ遺跡
1302 古府遺跡	1255 押野西遺跡	1229 御経塚B遺跡



第2図 周辺の遺跡(25,000分の1)

1256	押野西遺跡	1298	北塚B遺跡	1299	北塚B遺跡
1224	人塚古墳	1304	古府クルビ遺跡	1305	古府クルビ遺跡
6717	御経塚シンデン遺跡	1308	高島遺跡	1406	玉鉢B遺跡
1231	御経塚遺跡	1405	玉鉢遺跡		中世
1258	八日市ヤスマル遺跡		奈良・平安時代	1225	押野館跡
1257	西金沢新町遺跡	1223	富樫館跡	1226	上宮寺跡
6159	新保東遺跡	1351	久安さんまい川遺跡	6713	御経塚ボンサンマイ遺跡
6160	新保西遺跡	6713	御経塚ボンサンマイ遺跡	6158	新保南遺跡
1402	増泉跡排水路遺跡	1230	御経塚B遺跡		不詳
1268	森戸バイパス遺跡	1259	八日市B遺跡	1232	御経塚経塚
1260	黒田遺跡	1404	金沢専売公社工場遺跡	6509	御館前遺跡
1301	おまる塚古墳	1260	黒田遺跡	6510	古府B遺跡

3 遺構と遺物

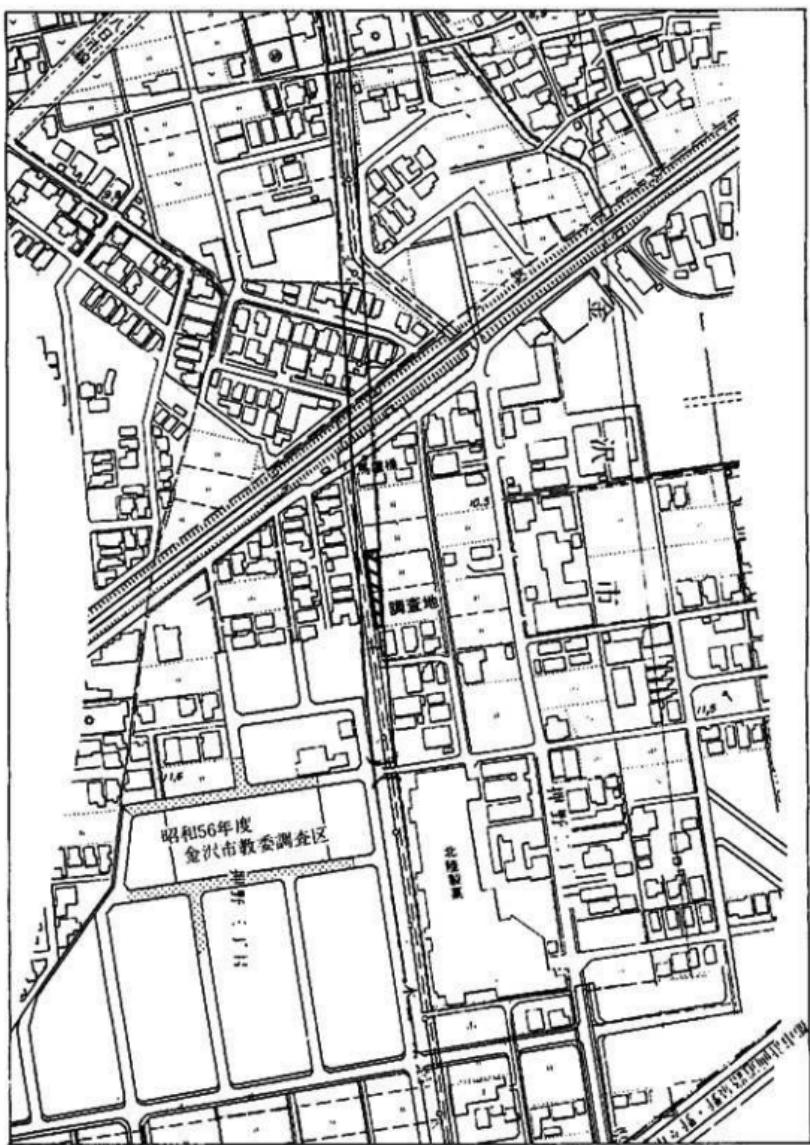
溝跡 調査区の南端近くで検出したもので幅280~345cm、深さ15~25cmではば南西、北東流するものである。土層観察の結果、大きくは二度にわたり埋没したものと考えられる。検出上面では、須恵器、越前焼なども混入していた。第4図1~3、5が出土している。1は口径17.7cmに復元できる有段口縁を有する變て振凹線を施す。やや外反する口縁部内側では指頭圧痕が明瞭に残り、体部内面はケズリにより薄く仕上げられている。外面には炭化物の附着が認められる。2、3も同様な變形土器であるが、細片である。5は、高杯の脚部で底径9.0cmを測り、内外面ともに粗いミガキを施している。

その他の遺構 故溝と思われるもので二条検出している。埋土は耕作土にちかく、また伴出遺物もなく、時期は不詳であるが新しい時期のものであろう。また、風倒木痕とみられるものが一ヶ所認められる。不整形で深さ5~10cmを測り伴出遺物はない。調査区北端近くは、地山面が緩く傾斜を始める。このあたりが、本遺跡の北端になるものと推定される。

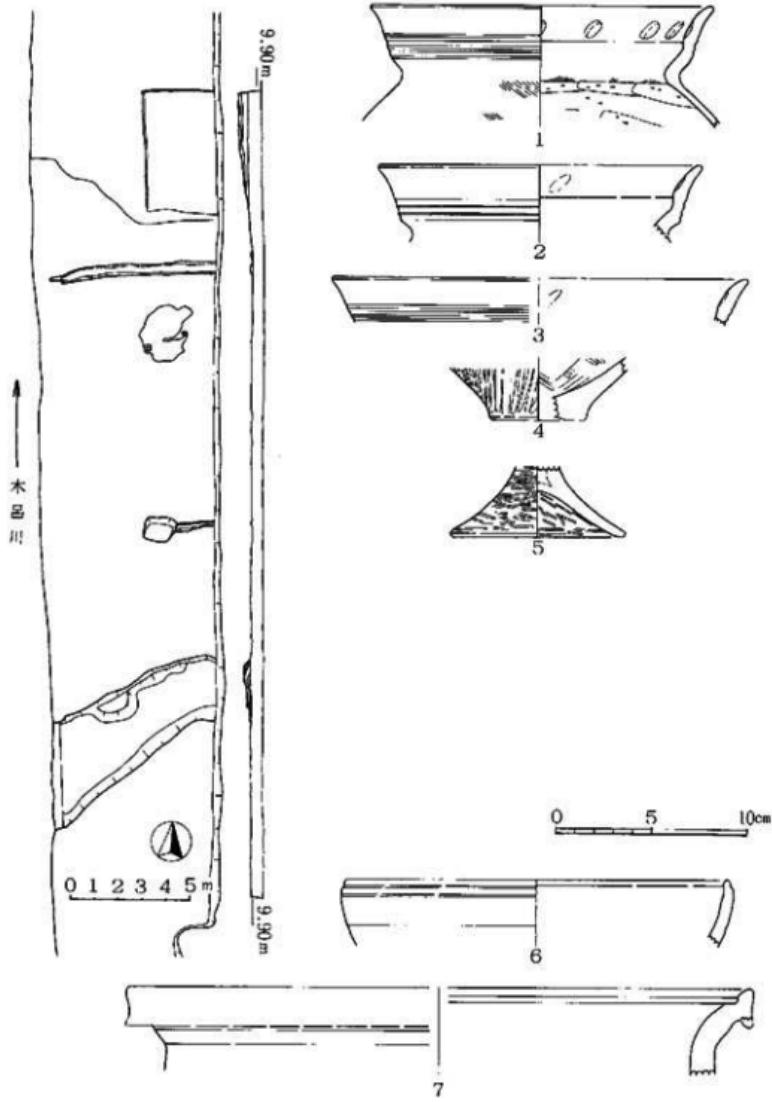
その他の遺物 七輪器120点、須恵器3点、越前焼1点、珠洲焼2点、不明1点(中世)、近代2点の総計129点が出土している。ほとんど細片のため図示することができない。4は、底径5.0cmに復元できる底部片で内外ともにミガキを施す。6は、須恵器で口径20cmを測るものである。他に杯、杯蓋、薬壺と思われる細片がある。7は、口径30cmを超す越前焼變である。珠洲焼では鉢、壺(空)の胴部片がある。また瀬戸・美濃と思われる褐釉の破片1点がある。

4 おわりに

今回の発掘調査により検出した遺構は、月影式期(弥生末~古墳初)の所産と考えられる溝のみである。また、周辺の開墾、削平により混入した遺物に、奈良時代後半~平安時代前半の須恵器の他、中世の珠洲、越前、瀬戸・美濃などの破片があり、当該期の遺跡が所在するものと考えられる。



第3図 調査区の位置(2,500分の1)



第4図 造構と遺物



調査位置(航空写真1988セントラル航業撮影1／12500)



調査前全景(北より)



調査前全景(南より)



溝跡土層(西より)



溝跡土層(西より)



調査区北側落ち込み状況



風倒木痕



陥溝



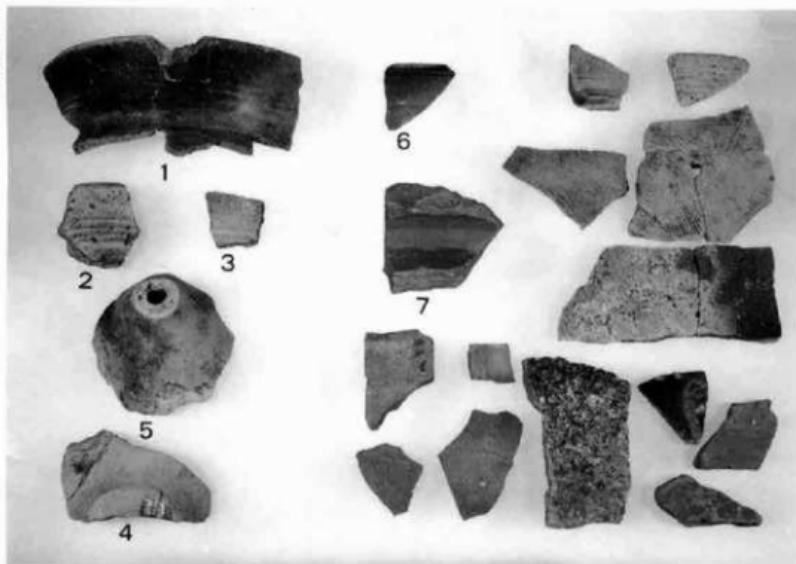
陥溝



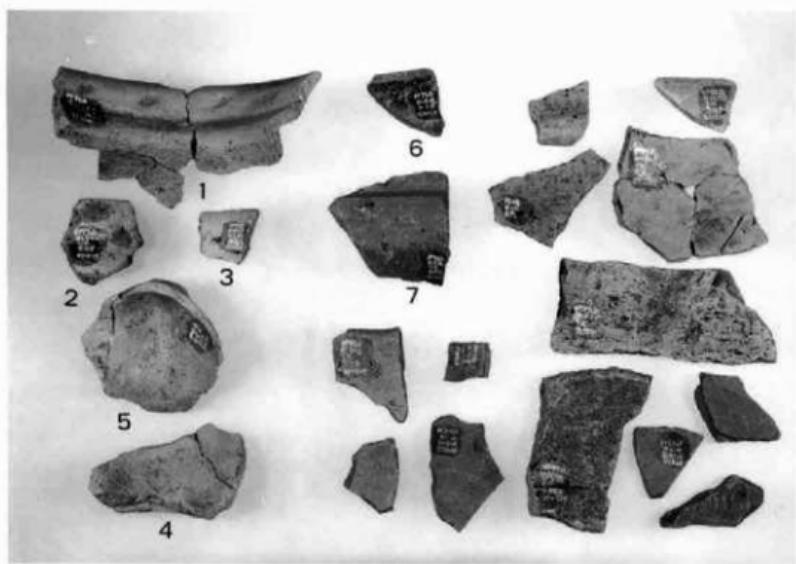
護岸仮復旧工事



重機による表土堆土



出土遺物(表)



出土遺物(裏)

押野西遺跡

——二級河川木呂川改員工事に
かかる押野西遺跡緊急発掘調査報告

発行日 平成2年3月31日

編集者 石川県立埋蔵文化財センター

発行者 〒921 石川県金沢市米泉町4-133

TEL (0762)43 7692

印刷所 北国書籍印刷株式会社
